

がん患者・家族の生活習慣立て直し支援の導入をめざした

Y病院看護師グループのとりくみ

～支援をめざして学んだ看護師らと周囲に生じた変化の波紋の広がり～

小笠原利枝¹、深沢輝子¹、平野志信¹、三次真理²、今泉郷子²、遠藤恵美子²
¹横浜市立みなと赤十字病院, ²武蔵野大学看護学部

【はじめに】

当院は、がんの進行・再発予防に向けた「生活習慣立て直し対話の会」支援モデルの普及を目指して看護師の学習・訓練モデルを開発する取り組みに参加している。支援モデルは、ニューマン理論に基づく対話を中核としたものであり、当院の看護師らは、その学習を通して、生活習慣改善に関わるために必要な知識や技術の習得を超え、自身や周囲の変化を体験した。

【目的】

がん患者・家族の生活習慣立て直しを支援する看護師のための学習訓練モデルを開発する取り組みの過程で、Y病院看護師にはどのような変化が生まれ、その影響は周囲にどのように及んだかを明らかにする。

【理論的枠組み】

全体論のパラダイムに準拠し、看護師らが今までの自己のあり様や患者・家族への関わり方に新たな気づきを得て行動に起こすことを推奨するニューマン理論である。

【研究方法】

看護師13名と教員3名で学習・訓練プログラム全5回を実施。食事、運動、保温、心の持ち方と人間関係に関する学習と対話を組み込んだ。対話の逐語録と参加者のジャーナルをデータとし、看護師に現れた変化と周囲に及んだ影響の過程を抽出した。

【倫理的配慮】

倫理審査承認後、研究内容と方法を説明し同意書を交換。匿名性と守秘義務を厳守。

【結果】

1) 生活習慣立て直しに関する知識を得て実践し自己の心と体の変化を体験したことで、生活のあり様に関心を抱くようになり生活習慣が変化した。2) 自己に現れたその変化を「家族」と語り合うようになり、互いが自己のあり様に気づき、家族の関係性と生活習慣が変化した。3) 自己の変化を「仲間」と語り合う中で互いが自己のケアパターンに気づき、患者・家族が自己のあり様に気づけるような関わりを日々のケアに取り込もうとする風潮が生まれた。4) 患者・家族の生活習慣立て直し支援を通して、彼らを理解しようとする一心に関わりパートナーとして寄り添う姿勢が現れた。5) 看護師が患者・家族自身の力を使って良く生きることを手助けする環境となれるように、生活習慣立て直し支援を日々のケアに根付かせようという努力が始まった。

【考察】

ニューマン理論に基づく学習・対話・実践を繰り返す過程で、自己、家族、仲間へと変化の波紋は広がり、病院全体としてのケアのあり様に変化していく可能性が示唆された。